

2009
新年号

Vol 18

宮城県立がんセンターボランティア「ひだまり」平成21年1月15日 発行
編集責任者 「ひだまり」編集委員会



いぎで実た分て手
るやは際りにた紙ボ
よ励なそす何だをラ
うまいのるかお見ン
なしの場こか花るテ
氣、ででとたにトイ
が暖す、がり見、ア
しかがボあか入ふさ
まさ、ラりけつとん
すな耳ンまでた、が
。どにテすいりご廊
の聞イ。る、く下
メニア よ絵短など
ツえさん う手いなど
セるん な紙時に飾
ー声と 、に間
ジで言 そ書、つて
をは葉 そんい自
送なを なて分くれ
つい交 気あのれ
て形わ 持る現たお
もでし ち言状お
ら、た に葉を花や
つ安わ なが忘や
てらけ つ自れ絵

立ち止まつてみると

臨床心理士 三浦 宏明

らん も気でしあまで
なテそ色が、、つうい忙
いん々つす暖たこるし
声アなあかでかのともか
まさこるなにさだものつ
でんとのいそととあにた
気にをかだばな思るもり
づ感考もけにりうの気な
け謝えしであうとがど
るしるれそつる、すつの
よつきまこたよ自分がか理
うつつせにのう分、ず由
に、かんあだなにふ、で
な心け。るともととぞ余
れ理を と思のつ氣の裕
た士作 いいがてづまが
らとつ うま見安くまな
として こしえら前通い
思てくれ とたなぎかりと
いもれ が。いやらす、
ま声た 、だ勵そぎ飾
すにボ けまこてら
。なラ にしれ

特集 昔話・朗読ボランティア 緩和ケア病棟

平成19年4月から緩和ケア病棟で、方言での昔話や童話の朗読などのボランティアを行なっています。

毎週水曜日 緩和ケアのティーサービスの時間帯(午後2時30分~)に、お部屋やラウンジでコーヒーの香りとともにお話を楽しんでいただいています。

今回は担当ボランティアの1人、金岡律子さんを紹介いたします。

香ばしいコーヒーの匂い、陽の光がさしこむ明るい部屋で、その時 その時が大切な時間となっている患者さんと、ご家族の方々に民話の語りのボランティアをしていまます。

むがあーす むがあーす ある所に おじいさんとおばあさんと孫がいたと…子供の頃、おばあさんの布団にもぐりこんで昔話を聞き、知らず知らずのうちに、お話の中にひきこまれていく遠い遠い昔の、そんなことが懐かしく思い出しが出来たでしょうか。

患者さん方が少しでも安らぎと明るい笑顔になれるよう、そして人ととのつながり、出会いを大切に楽しい昔話を語っていきたいと思います。

(金岡 律子)



ボランティアひだまり活動内容

(外来活動)

外来受付補助・各科受付診療場所案内・花壇やロビー花の手入れ・外来図書整理

(病棟活動)

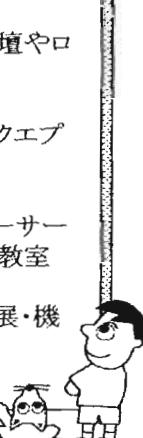
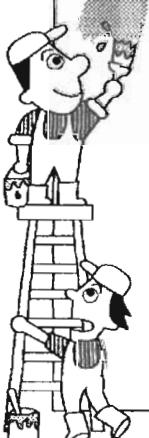
病棟移動図書・CD貸出・手作り帽子やネックエプロンの販売・押花葉作り

(緩和ケア病棟活動)

中庭手入れ・ラウンジや廊下の花活け・ティーサービス・季節の行事手伝い・本の朗読・絵手紙教室

(イベントなどの活動)

絵手紙講習会・ロビーコンサート・ギャラリー展・機関紙発行・各種講習会



第二回 ひだまり句会 作品

コラム ひだまり

～大切な時間～

病棟に薄き日射や春隣
貼り紙の句会の知らせ千代の春
朝の雪肩にひとひら舞ふごとし
人の波買はずに疲れ年の市
岬まで続くかぎりの野水仙
初春や雲ひとつすじの沖はるか
憂き事もすべて収めて今朝の春
かじかむ手息ふきかけて登校す
北風に自転車の娘の赤き頬
箱根路を韋駄天駆ける一日かな

順子 晴美 米子 サチ いづみ 利子 栄子 典子 ゆきこ ぶえつ

ギャラリー展予定

- 1/27~2/10 名取市写真愛好会 作品展
- 2/17~3/3 フォトサークルいきいき 作品展
- 3/10~3/24 卓仙会 水墨画展
- 3/24~4/13 フォトクラブ中山 写真展

今まで忙しい生活をしてきた私にとって仕事を離れた今、時間がゆっくり流れています。そんな中で、大切にしている時間が愛犬ハルとの散歩…季節の移り変わりを肌で感じたり、空の青さに感動したり、野の草花に目を止め眺めたりしていると、心が豊かになっていくような気がします。

そして、もうひとつの大切な時間は、昨年11月から始めたボランティア…私も一員に加えて頂き、さまざまな活動があることに驚きました。ボランティアの方々一人一人の心配り、想い、願いを強く感じ、「ひだまり」の中で活動できることを、とても嬉しく思っています。

みなさんにお会えたことに感謝！

(氏家 洋子)



がんセンター1階エレベーター前で開催している「ギャラリー展」に、最多展示されている名取市の『ゆりあげざっこ写友会』をご紹介いたします。

スポットライト ゆりあげざっこ写友会

平成12年より年2回展示させていただいております「ゆりあげざっこ写友会」の紹介をいたします。

* 「ざっこ」の名称考

本字は「雑肴」であり、魚の種類大小取り混ぜた総称であります。それが訛って「ざっこ」になりました。「ざっこ」は、何でも一堂にという広い気持ちをもっている言葉でもあります。「ざっこ」の前に地名の「ゆりあげ」を、「写友会」を後に付けたのであります。

* 癒しのスタイルと写真

私たちは、写真により人の五官のうち視覚を通して季節感や、その他日常接する平凡な被写体をいろんな角度から取りあげています。それを入院されている方、通院されている方々に見ていただき、その中から皆さまの「癒し」として心に留めるものがあればと存じております。今後とも皆さまのご鞭撻をお願いします。

(ゆりあげざっこ写友会 メンバー)
三宅 俊昭

編集委員
高遠典子
(五十音順)
前田利子
斎藤みき子
佐々木サチ

編集後記

よせかけりも人二
ろ今んのけ今のが枚昨
し年が方等年手演年
く一年はは際で奏私の
お願い又心を新たに生
きしテられなで、なみイセラ音年ボ
聞楽ンわそ快ろに、なみイセラ音年ボ
きしテられなで、なみイセラ音年ボ
がでアるは樂をランテ
ら生ニコと越シテ
止活年と私、して
手の目がのして
に一とで年つしま
手部なき末とま
早とりま年りいか
くなまし始とま
とつすたのし
はて。仕たたた
い週事大。人中
なまに一度のB
なかミシミG女
でシンシC女とM
まかん手十D歌性
の二が

雑感

（担当
齋藤
みき子）

（担当
齋藤
みき子）